

[省令第8条の4の5 (1,000トン以上排出事業者用)]

様式第2号の8 (第8条の4の5関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 16日

(宛先) 長野市長 荻原 健司 様

提出者

住 所 長野県長野市松代町西寺尾1897-1

氏 名 ㈱ネクスコ・メンテナンス関東 長野事業所

事業所長 越山 安敏

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 026-261-2155

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	㈱ネクスコ・メンテナンス関東 長野事業所
事業場の所在地	〒381-1215 長野県長野市松代町西寺尾1897-1
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	資本金9,000万円 (会社全体)
③ 従業員数	357人 (会社全体)
④ 産業廃棄物の一連の処理工程	次年度の概算発生量を算出→処理・収集運搬の契約→各工事で産業廃棄物が発生→マニフェスト発行→自社もしくは回収業者による運搬→産業廃棄物の処理→マニフェストに記載された情報を集計表に記録→マニフェストの保管

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス)	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	木くず	金属くず	建設混合廃棄物(安定型、管理)	汚泥(上・下水、建設、その他)
	排出量	856.96t	17.72t	3.49t	18.08t	10.10t	212.59t
②計画	産業廃棄物の種類	混合廃棄物(蛍光灯、電池)	ガラス・コンクリート・陶磁器く				
	排出量	0.48t	0.01t				
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物の分別、処分についての指導を行った。 回収してきた木材を廃棄するだけでなく、利用できそうなものは再利用することにより、木くずの発生を極力抑えた。						
①現状	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス)	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	木くず	金属くず	建設混合廃棄物(安定型、管理)	汚泥(上・下水、建設、その他)
	排出量	800.00t	17.00t	3.00t	18.00t	10.00t	200.00t
②計画	産業廃棄物の種類	混合廃棄物(蛍光灯、電池)	ガラス・コンクリート・陶磁器く				
	排出量	0.40t	0.01t				
	(今後実施する予定の取組) 各現場担当者に廃棄物発生量の現状と目標値を周知し、現場において再利用できるものを検討し、リユースに努める。						

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 回収してきた木材を廃棄するだけでなく、利用できそうなものは再利用することにより、木くずの発生を極力抑えた。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現場において再利用できるものを検討し、リユースに努める。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項							
①現状	【前年度（令和 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	木くず	金属くず	建設混合廃棄物(安定型、管	汚泥(上・下水、建設、その他)
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	混合廃棄物(蛍光灯、電池)	ガラス・コンクリート・陶磁器く				
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	木くず	金属くず	建設混合廃棄物(安定型、管	汚泥(上・下水、建設、その他)
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	混合廃棄物(蛍光灯、電池)	ガラス・コンクリート・陶磁器く				
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組)						
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項							
①現状	【前年度（令和 年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	木くず	金属くず	建設混合廃棄物(安定型、管	汚泥(上・下水、建設、その他)
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	混合廃棄物(蛍光灯、電池)	ガラス・コンクリート・陶磁器く				
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量							
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組)							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	木くず	金属くず	建設混合廃棄物(安定型、管	汚泥(上・下水、建設、その他)
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	混合廃棄物(蛍光灯、電池)	ガラス・コンクリート・陶磁器く				
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量							
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組)							

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(令和 年度)実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	木くず	金属くず	建設混合廃棄物(安定型、管理	汚泥(上・下水、建設、その他)
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	木くず	金属くず	建設混合廃棄物(安定型、管理	汚泥(上・下水、建設、その他)
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(令和 4 年度)実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	木くず	金属くず	建設混合廃棄物(安定型、管理	汚泥(上・下水、建設、その他)
	全処理委託量	856.96t	17.72t	3.49t	18.08t	10.10t	212.59t
優良認定処理業者への処理委託量							
再生利用業者への処理委託量							
認定熱回収業者への処理委託量							
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							
①現状	【前年度(令和 4 年度)実績】						
	産業廃棄物の種類	混合廃棄物(蛍光灯、電池)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(石膏ボード等)				
	全処理委託量	0.48t	0.01t				
優良認定処理業者への処理委託量							
再生利用業者への処理委託量							
認定熱回収業者への処理委託量							
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							
(これまでに実施した取組)							
産業廃棄物の分別、処分についての指導を行った。回収してきた木材を廃棄するだけでなく、利用できそうなものは再利用することにより、木くずの発生を極力抑えた。							

【目標】						
産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリガラ、廃アスファルト、レンガ)	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡スチロール含)	木くず	金属くず	建設混合廃棄物(安定型、管理型)	汚泥(上・下水、建設、その他)
全処理委託量	800.00t	17.00t	3.00t	18.00t	10.00t	200.00t
優良認定処理業者への処理委託量						
再生利用業者への処理委託量						
認定熱回収業者への処理委託量						
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
産業廃棄物の種類	混合廃棄物(蛍光灯、電池)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(石膏ボード含)				
全処理委託量	0.40t	0.01t				
優良認定処理業者への処理委託量						
再生利用業者への処理委託量						
認定熱回収業者への処理委託量						
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
(今後実施する予定の取組) 社内会議等で産業廃棄物の発生量縮減についての打ち合わせを実施し、発生量を抑える努力をする。 各現場担当者に廃棄物発生量の現状と目標値を周知し、現場において再利用できるものを検討し、リユースに努める。						
②計画						
※事務処理欄						

(第6面)

備 考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が12以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。  
また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

## 産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

処 理 事 項		産 業 廃 棄 物 の 種 類 (実績値・計画値)											合 計		
		がれき類 (コンクリ がら、廃 アスファ ルト)	廃プラスチック (廃 タイヤ、 発泡スチ ロール)	木くず	金属くず	建設混合 廃棄物(安 定型、管 理型)	汚泥(上・ 下水、建 設、その 他)	混合廃棄 物 (蛍光 灯、電 気機器)	ガラス・ コンク リート・ 陶磁器						
排出抑制に関する事項	前年度排出量(実績)	856.96t	17.72t	3.49t	18.08t	10.10t	212.59t	0.48t	0.01t					1,119.43t	
	本年度排出量(計画)	800.00t	17.00t	3.00t	18.00t	10.00t	200.00t	0.40t	0.01t					1,048.41t	
自ら行う(行った) 再生利用に関する事項	前年度実績														
	本年度計画(目標)														
自ら行う (行った) 中間処理 に関する 事項	自ら行う (行った) 熱回収の量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													
	自ら中間処理 により減量 する(した)量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													
自ら行う(行った)埋立 処分又は海洋投入処分 に関する事項	前年度実績														
	本年度計画(目標)														
処 理 の 委 託 に 関 す る 事 項	全処理委託量	前年度実績	856.96t	17.72t	3.49t	18.08t	10.10t	212.59t	0.48t	0.01t				1,119.43t	
		本年度計画(目標)	800.00t	17.00t	3.00t	18.00t	10.00t	200.00t	0.40t	0.01t				1,048.41t	
	優良認定処理業者 への処理委託量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													
	再生利用業者 への処理委託量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													
	認定熱回収業者 への処理委託量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													

## 【記載方法】

- ・ 各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の上段に前年度の実績（現状）を、下段に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- ・ 「自ら行う再生利用に関する事項」の欄は、自ら直接再生利用した量と中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- ・ 「自ら行う埋立処分又は海洋投入処分に関する事項」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。
- ・ 「処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量及びそれぞれの内訳を記載してください。